

## 経営協議会の外部委員からの意見を法人運営の改善に向け審議、活用した例

### — 平成 28 年度の取組 —

経営協議会の外部委員からいただいたご意見について、継続的に大学運営に活用しており、平成 28 年度においては、以下の取組を実施した。

#### ① 人材養成

(意見) 医療人のグローバル人材育成について (平成24年度第4回経営協議会)

##### ●ジョイント・ディグリー (JD) プログラムの開始

平成 28 年度より、「東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻」及び「東京医科歯科大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻」を開設し、前者については 1 名、後者については 3 名の外国人学生を受け入れ、国際共同教育研究と人材育成を開始した。また、平成 28 年 10 月には学長・理事等がガーナ大学を訪問し、大学間協定を締結するとともに、ジョイント・ディグリープログラムなども視野に入れた今後の交流について協議した。

##### ●グローバル教育の推進

平成 25 年度より学士課程で導入している、将来の医療・医学におけるリーダーを養成する選抜制の少人数プログラム「HSLP (Health Sciences Leadership Program)」について、正規のコースに参加する時間を確保できない学生を対象とした「Associate Membership (准メンバー) 制度」を新たに導入し、随時加入を可能とした。さらに、大学院版 HSLP の導入について検討し、パイロット版として「Design thinking bootcamp」を実施し、平成 29 年度より大学院履修科目として 3 科目、平成 30 年度からはさらに 1 科目を開講することとした。

(意見) 次世代を担う医療人の人材育成について (平成24年度第4回経営協議会)

##### ●大学院改革

IoT・AI・ロボティクス等による技術革新や気候変動、大気汚染、超高齢社会など、急速な環境の変化に対応できる人材を養成するため、学年進行中の専攻を除いた全ての専攻の教育研究体制を見直して、新たな「医歯学総合研究科」として整備することとし、平成 30 年度の設置に向け、教育プログラムやカリキュラム案作成等の準備を進めた。

##### ●医療体験セミナーの実施

本学教員の指導の下、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士等の仕事を体験できる医療体験セミナー「中学生医療体験教室」を開催した (参加者数 : 31 名)。参加申込者数は前年度比 256% (87 名) と募集定員の約 3 倍の申し込みがあり、抽選を行い参加者を決定するほど、中学生から高い関心を引いたことが確認できた。実施後のアンケートでは、参加者全員がセミナーについて「満足」又は「やや満足」と回答するなど、高い評価が得られた。

(意見) 学生の海外派遣について (平成26年度第4回経営協議会)

### ● 留学支援の取組

留学支援のため統合教育機構内に「グローバル教育推進チーム」を設置し、海外派遣前教育や留学への動機付けの取組を行ったほか、「プロジェクト・セメスター」、「研究実習」、「大学の世界展開力強化事業」等のプログラムによる海外派遣や大学基金を活用した「海外研修奨励賞」等による奨励金の支給（学部学生：14名、計370万円；大学院生：4名、計96万円）及び海外研修オリエンテーションを継続して実施した。さらに、医学部医学科においては、平成27度に締結した国際交流協定により平成28年度からネバダ大学への派遣を開始したほか、平成28年度より新たに低学年（1～3年次）の学生を対象とした短期間の海外派遣を開始した。

これらの取組により、平成28年度における卒業生・修了生に占める海外経験者の割合は、学士課程で医学科36%、歯学科36%、保健衛生学科16%、口腔保健学科31%となり、スーパーグローバル大学創成支援事業の目標値（医学科36%、歯学科18%、保健衛生学科10%）を達成した。大学院課程においては、全体で19%（博士課程21%、修士課程17%）となっており、前年度の割合（全体11%、博士課程16%、修士課程3%）から向上するなどの成果を得ている。

## ② 給与制度改革

(意見) 経営状況に適した給与改定について (平成26年度第4回経営協議会)

### ● 賞与制度の見直し

大学の財政状況に応じた賞与支給を行うため、賞与制度を見直し、予算編成時の収支見込みを基に賞与予算を決定する「賞与係数」の仕組みを平成29年度6月期より導入することとした。

## ③ 広報活動の推進

(意見) 積極的な広報活動の実施について (平成25年度第1回経営協議会)

### ● 情報発信に係る取組

広報誌（4冊）やFacebook（172件）、プレスリリース（57件）等を通じて本学の特色や最新の研究成果、国際拠点の活動等を国内外に向けて積極的に情報発信した。加えて、本学の知名度・ブランド力の向上に向けた取組として、大学オリジナルのグリーティングカードを作成し国内外の研究機関や研究者等を対象に、59カ国、945機関、計1,195名の宛先に送付した。

### ● 記者懇談会の拡充

メディア関係者とのより一層の関係強化を図り、本学の種々の活動や実績を広く社会に発信するために、定期的に記者懇談会を実施しており、平成28年度においては開催形態を見直し、開催回数を前年度の5回から6回に増加させるとともに、これまで研究に係るテーマが多かった講演内容に加えて「本学の先進的な医学教育について」といった

教育に係るテーマを設定したほか、入試広報の側面も考慮して、予備校関係者を招いて教育や人材育成活動の紹介及び情報交換するなどの取組を行った。

(意見) インターネット等を活用した広報活動 (平成 27 年度第 2 回経営協議会)

●国際的な情報発信体制の構築

国際的な情報発信体制の構築のため、米国科学振興協会 (AAAS) が提供しているオンラインニュースサービス「EurekAlert」と契約し、日本語で実施したプレスリリースを英語化して配信した。

④ 病院運営の改善

(意見) 歯学部附属病院における先進医療強化について (平成 26 年度第 1 回経営協議会)

●先端歯科診療センターの取組

各専門診療科で行っている治療を包括的に行い、高度で専門的な歯科治療を効率的に提供することを目的として、平成 27 年度に設置した「先端歯科診療センター」については、平成 28 年度において各種医療機器を購入 (計 1,381 万円) し、整備充実を図った。なお、平成 28 年度の患者数は 4,423 人、稼働額は 1 億 2,818 万円であった。